

平成 29 年度

事業報告書



社会福祉法人 広寿会



「ちぎり絵」(砥部町デイサービスセンター利用者作品)

平成 29 年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	4
【運営理念】	4
【基本方針】	4
〈ひろた職員心得〉	4
【平成 29 年度目標の評価】	5
〔1〕 法人の概要	6
〔2〕 役員等の状況	7
〔3〕 平成 29 年度評議員会開催状況.....	7
〔4〕 平成 29 年度理事会開催状況.....	7
〔5〕 平成 29 年度役員等の研修参加状況.....	8
〔6〕 職員の状況	8
〔7〕 地域支援事業	9
〔8〕 法人連携事業	10
2. 施設部門.....	11
【平成 29 年度目標の評価】	11
〔1〕 施設部門の状況.....	11
(1) 施設の種類	11
(2) 運営状況（利用状況）	11
(3) 利用者の状況.....	12
〔2〕 事業内容.....	13
(1) ユニットの状況	13
(2) 行事報告	14
〔3〕 委員会	16
(1) リーダー会	16
(2) サブリーダー会	17
(3) 排泄委員会	17
(4) 介護力向上委員会	18
(5) ユニット会議.....	18
(6) 事故防止委員会	19
(7) 身体拘束廃止委員会	21
(8) 褥瘡予防委員会	21
(9) 感染予防対策委員会	21
(10) 医療安全管理委員会	22
(11) 苦情検討委員会	22

〔4〕 その他の会議	23
(1) 第三者委員会.....	23
(2) 利用者相談会「いどばた会議」	23
(3) 家族の会	24
〔5〕 その他の事業	24
3. 在 宅 部 門.....	25
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	25
【平成 29 年度目標の評価】	25
(1) 運営状況	25
(2) 事業内容	26
(3) 苦情受付	26
(4) 地域連絡会	26
〔2〕 たちばなの家じゃんけんぼん	26
【平成 29 年度目標の評価】	26
(1) 運営状況	27
(2) 事業内容	28
(3) 事故報告	30
(4) 防火・避難訓練	31
(5) 運営推進会議.....	31
(6) 苦情受付	31
(7) 在宅ケア委員会	32
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町委託事業）	32
【平成 29 年度目標の評価】	32
(1) 運営状況	33
(2) 事業内容	34
(3) 事故報告	36
(4) 苦情受付	37
(5) 在宅ケア委員会	37
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町委託事業）	37
(1) 転倒予防教室.....	37
(2) 地域住民グループ支援事業.....	38
(3) いきいき見守り配食サービス	38
〔5〕 支援ハウス（砥部町委託事業）	38
(1) 運営状況	38
(2) 行事報告	39
4. 会 議 等.....	39
〔1〕 運営会	39
〔2〕 職員会	40

〔3〕 広報委員会	41
〔4〕 防災委員会	41
〔5〕 給食委員会	43
5. 研 修 等.....	47
〔1〕 施設実習等受入状況.....	47
〔2〕 施設内研修	47

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 思いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【平成 29 年度目標の評価】

（１）利用者に笑顔で穏やかに暮らしていただけるよう、理念に基づいた個別ケアを行う

29 年度も継続して各事業所が機能訓練（生活リハビリ）に力を入れて取り組んだほか、事業所間で連携して利用者や家族に水分摂取の重要性を訴える等、利用者の日々の体調管理を支援した。そのような中、広田地区では 30 年の年明けから 3 度も豪雪に見舞われ、砥部町デイサービスセンターではやむを得ず臨時休業をした日もあった。この時には職員が独居利用者の自宅を訪問して除雪作業をしたり、弁当を届けたりした。山間の集落では隣近所がない家も珍しくなく、大雨や積雪によって道路が寸断されてしまった場合は安否確認もままならない。山間部における独居高齢者や高齢夫婦の支援の難しさを改めて痛感した。この経験を今後の取組みに役立てたい。

また、職員からの発案で敬老会を復活させたり、在宅の利用者に気持ちよく新年を迎えてほしいとの思いから、初の試みとしてデイサービスが休業する年末年始の期間中に独自の取り組みとなる入浴サービスを実施したりして、利用者や家族に大変喜んでいただいた。

引き続き、利用者や家族のニーズをしっかりと把握し、地域に根差した法人としてその存在価値を高めていきたい。

（２）業務の見直し及び時間管理能力を向上させ、効率的な人員配置の実現を目指す

組織内で行う様々な会議や委員会では定刻開始を周知徹底するとともに、会議資料の事前配付を推進して効率的な時間活用に取り組んだ。

また、29 年度は新たに 2 人の職員が育児休業を取得、復帰した職員は労働時間を短縮するなど、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場として職員に認識されつつあると考える。しかし、このような働きに対応していくには一定の人員は必要である。労働人口の減少により、人材確保は今後一層厳しくなるため、各部署において業務の見直しを継続して行い、改善を図ってきたい。

（３）地域住民、行政と連携し、広田地域の高齢者等が安心して住み続けられる居住施設の開設を目指す

広寿会では法人設立当初から、「住み慣れた地域で暮らし続けられる支援」を大きな柱の一つに掲げており、その具体的計画として近年は、サービス供給量が圧倒的に少ない広田地区での小規模多機能型居宅介護事業所開設について調査、検討を進めてきた。

そして、今般、砥部町の第 7 期介護保険事業計画において、この小規模多機能型居宅介護事業所の整備推進が計画されたことを受け、理事会ではその実現に向けて動いていくことを確認したところである。

正式な開設決定には、クリアしなければならない課題も山積しており、一朝一夕にはいかないが、開設を心待ちにしてくれている地域住民の期待に応えられるよう、30 年度より本格的な準備に着手していくこととしている。

（４）法人と職員が共に成長し、やりがいを持てる組織を実現できるよう、成長支援制度の円滑な運用を目指す

29年度は、27年度に1年をかけて策定し、28年度から運用を開始した成長支援制度に基づく職員の本格付が完了した。年度当初には28年度に設定した個人目標の達成度を検証し、十分に達成できなかった職員はその要因を、また達成できた職員は次なるステップの目標を、所属上司と一緒に考えた。成長支援制度の運用開始により、職員教育の方法も効果的かつ効率的な形に改善されてきたように感じている。また、それぞれの格付に法人が求める要件をまとめた行動基準チェックや職員が個々に自分の業務スキルを点検するスキルチェックも職員間に一定程度浸透し、仕事をする上での目標設定や自己実現に役立っている。引き続き、必要な修正も加えながら、広寿会の風土に合った制度に仕上げていきたい。

（５）安定した事業運営を目指す

法人全体として経費節減に取り組み、職員がそれぞれの立場でムダのない予算執行に努めた。しかしながら、最低賃金の伸びや燃料費等の物価上昇の影響は無視できず、30年度の懸念材料でもある。

事業所ごとの運営については、たちばなの家じゃんけんぼんは、29年度6月より土、日曜日を休日としたことからいっそうの収入減が心配されたものの、職員の地道な広報活動によって想定以上に収支が改善した。ただ、近隣に同種のサービス事業所がいくつもあり、厳しい環境に変わりはなく、引き続き気を引き締めて経営にあたっていかなければならない。

また、居宅介護支援事業所ひろたは、長年、配置職員1名で対応してきたものの、急激な利用者増によって年度当初から超過による減算状態が1年を通じて続いた。収支状況を考えると厳しい状況ではあるが、地域の高齢者を支えるため、30年度は職員を増員し、体制強化を図りたい。

経費節減にも限界があり、新たな収益を上げるための対策も急務となる中、30年度の介護報酬改定は、特養ひろたのような小規模特養には非常に厳しいものとなるが、限られた予算の中で将来を見据えた投資も行い、広く社会に貢献できる法人ならびに事業所づくりに邁進したい。

〔1〕法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 生活支援ハウスの経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕役員等の状況

1. 構成（平成30年3月31日現在）

評議員	定数	7人（現員7人）
理事	定数	6人（現員6人）
監事	定数	2人（現員2人）

〔3〕平成29年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
平成29年06月20日 （評議員）7人 （監事）2人	報告	第1号 平成29年度事業計画及び収支予算について 第2号 施設長人事について 第3号 平成28年度事業報告について
	議案	第1号 平成28年度計算書類等（決算報告）の承認について 第2号 定款の変更について 第3号 理事及び監事の報酬等の額、理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準について 第4号 平成29年度第一次補正予算（案）の承認について 第5号 理事及び監事の選任について
平成30年03月29日 （評議員）6人 （監事）2人	議案	第6号 平成29年度第二次補正予算（案）の承認について
		第7号 定款の変更認可申請について
		第8号 平成30年度事業計画（案）の承認について
		第9号 平成30年度収支予算（案）の承認について

〔4〕平成29年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
平成29年06月05日 （理事）6人 （監事）2人	報告	第1号 特養ひろた開園16周年記念感謝祭について
	議案	第1号 平成28年度事業報告の承認について 第2号 平成28年度決算報告の承認について 第3号 社会福祉充実計画について 第4号 定款の変更について 第5号 規程の改正について 第6号 平成29年度第一次補正予算（案）の同意について 第7号 施設長人事について 第8号 理事及び監事候補者の推薦について 第9号 評議員会の招集について

平成 29 年 06 月 21 日 (理 事) 6 人 (監 事) 1 人	報告	第 2 号	平成 29 年度第 1 回評議員会 (定時評議員会) の内容報告について
	議案	第 10 号 第 11 号	理事長の選定について 規程の改正について
平成 29 年 12 月 19 日 (理 事) 6 人 (監 事) 2 人	報告	第 3 号	職員人事及び平成 29 年度第 1 回正規職員試験の実施結果について
		第 4 号 第 5 号	平成 29 年度事業所別稼働状況について 平成 29 年度予算執行状況について
	議案	第 12 号	規程の改正について
平成 30 年 03 月 22 日 (理 事) 6 人 (監 事) 2 人	報告	第 6 号	平成 29 年度下期の全体運営及び予算執行状況について
		第 7 号	職員人事について
		第 8 号	平成 29 年度事業所別稼働状況について
	議案	第 13 号	平成 29 年度第二次補正予算 (案) の同意について
		第 14 号	定款の変更認可申請について
		第 15 号	たちばなの家じゃんけんぼん運営規程の制定等について
		第 16 号	規程の一部改正について
		第 17 号	平成 30 年度事業計画 (案) の同意について
		第 18 号	平成 30 年度収支予算 (案) の同意について
第 19 号	評議員会の招集について		

〔 5 〕 平成 29 年度役員等の研修参加状況

年月日	研修名	主催者	開催地	参加人数
平成 30 年 02 月 16 日	社会福祉法人監事監査 研修会	愛媛県社会福祉法人 経営者協議会	愛媛県総合社会福祉会館 (松山市)	1

〔 6 〕 職員の状況

【職員数】平成 30 年 03 月 31 日現在

単位：人

	常勤		非常勤職員	計
	正規職員	準職員		
男	11	1	0	12
女	12	7	16	35
計	23	8	16	47

【勤続年数】平成30年03月31日現在

単位：人

			1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年～ 15年未満	15年以上	計
常勤職員	正規職員	男	0	3	1	3	2	2	11
		女	0	2	1	3	3	3	12
	準職員	男	1	0	0	0	0	0	1
		女	2	3	1	1	0	0	7
非常勤職員		男	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	6	3	4	1	2	16
計			3	14	6	11	6	7	47

【有資格者数】平成30年03月31日現在

単位：人

	看護師	准看護師	社会福祉士	介護福祉士	管理栄養士	介護支援専門員
男	0	0	0	7	0	2
女	2	5	0	14	2	3
計	2	5	0	21	2	5

※1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上。

【研修修了者数】平成30年03月31日現在

単位：人

認知症対応型サービス事業 管理者研修	認知症介護実践者研修 (実践リーダー研修)	認知症介護実践者研修
2	2	4

〔7〕地域支援事業

①災害・異常気象時等の安否確認

平成30年1月、突然の大雪でデイサービスの送迎が困難な状態となった。デイサービス職員、居宅、管理部で協力し、独居高齢者を中心に安否確認の訪問を行った。2月にも積雪が2回あり、デイサービス・ショートステイの送迎時に利用者の自宅前の除雪を行う等、安全に配慮しながらできる限り利用していただけるよう努めた。

今後もこのような異常気象時等に迅速な行動ができるよう心掛けていきたい。



【ショートステイ送迎の様子】

【訪問の様子】

②年始入浴支援

年末年始の砥部町デイサービスセンター休業中、自宅での入浴が困難な方への支援として、職員の発案により特養の浴室を使用して入浴の支援を行った。平成30年1月2日、デイサービス職員も出勤し、送迎を含めて多職種協力して対応した。利用者、ご家族からも「ゆっくりお風呂に入れてよかった」と好評であった。今後も利用者や家族、地域の方のニーズを汲み取り、在宅での生活を支えていきたい。

〔8〕法人連携事業

①砥部町社会福祉法人連携

【砥部町社会福祉法人連携協議会】

メンバー：砥部町社会福祉協議会・砥部寿会・南風会・広寿会

目的：砥部町内の社会福祉法人が連携し「地域における公益的な取り組み」活動を行う。

《総評》

社会福祉法の改正によって、社会福祉法人による「地域における公益的な取り組み」が責務化された。砥部町内4つの社会福祉法人で会を設置し、協議を重ねてきた。29年度は主に生活困窮者への支援に取り組み、『きらきら食堂』と『お互い様リサイクル』を行った。

1 法人では難しいことも、法人が協力することによって支援の方法も広がることを実感した。この活動を通して、今ままで以上に法人同士の連携を強め、地域への支援を行っていきたい。



【きらきら食堂案内】

②さんぱつカフェ

【砥部町地域福祉活動推進懇談会】

メンバー：地域住民・砥部町役場広田支所・砥部町社会福祉協議会・広寿会

目的：住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民や社会福祉関係者が互いに協力し、地域の福祉課題を解決するために取り組む。

《総評》

地域での課題を話し合う中、理美容室がなくなったことで散髪に困っている高齢者が多いことが分かり、地域交流の場としての機能を併せ持った『さんぱつカフェ』を12月と3月に実施し、広寿会は送迎が必要な方の支援を行った。

2 回目の開催時は初回の2倍以上の希望者があり、アンケートでは「今後も定期開催してほしい」との意見が多かった。次回は平成30年6月を予定している。広寿会のサービスを利用していない地域の高齢者を知る機会として、引き続きできる限りの協力をしていきたい。



【さんぱつカフェ案内】

2. 施設部門

【平成 29 年度目標の評価】

【重点目標】 職員のスキルアップと、利用者の生活の質が向上する支援

(1) ダブルチェックを確実にを行い、異変の早期発見・早期対応に努め、稼働率の向上を目指す

(施設目標：平均稼働率：99% ショートステイ目標：平均稼働率：100%)

(2) ユニット単位での食事作りを行い、利用者を楽しみを提供する

(3) 職員のレベルに応じた研修に参加できるように、施設内研修の形態を見直し、個々の成長を促す

(4) 多職種で連携して自然排便を促し、下剤使用率を減らす(目標：下剤使用 0 人)

開設当初より「食=命」を念頭に、ケアを行ってきた。しかし、職員の入れ替わりや退職等により、その思いが十分に伝わっていないのではないかと感じ、29 年度は原点に戻って、ユニットでの食事作りを取り入れた。調理に不慣れな職員が多く、実施当初は管理栄養士任せになっていたが、徐々にユニット職員主体で実施できるようになった。利用者と一緒に食事を作り食べることにより、喜びを共有できたと思っている。

研修については、職員のレベルに応じて担当を割り振り実施した。内容によってケース検討を取り入れることで、受け身だった職員も積極的に参加するようになった。ダブルチェック時にはリーダーも知識を活かした発言ができるようになってきている。

週 1 回のダブルチェックも定着し、多職種で連携対応することで、下剤使用率を減らすことはできた。異常の早期発見・早期対応については、バイタルの変化が見られ始めた段階で早めに病院受診したにもかかわらず、すでに重篤化していた事例が多く見られ、28 年度より入院日数が増加した。受診に対して、判断に迷うケースが増えてきている。

今後の課題として、バイタルの変化が見られてからの判断ではなく、日常生活での変化に気づき、早めの受診をすることにより入院日数を減らしたい。

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） 定員 30 人
②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） 定員 4 人

(2) 運営状況（利用状況）

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0
稼働率(%)	100	100	99.8	100	99.8	100	100	100	99.8	99.6	99.8	99.7	99.8

※ 28 年度稼働率 99.6% (空床利用含)

【短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	14	16	15	14	16	16	17	17	18	17	17	16	16.0
稼働率(%)	111.6	103.2	113.3	116.1	116.9	119.1	123.3	120.0	129.0	125.8	123.2	117.7	118.2

※ 28年度稼働率 117.3%

※ 29年度全体（特養＋短期）稼働率 102.0% 28年度全体（特養＋短期）稼働率 101.7%

（３）利用者の状況

【出身地別入居・退居状況】

単位：人

市町／区分	保険者別利用者数			平成29年度中の異動状況					
				入居			退居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
松山市	0	2	2	0	1	1	0	0	0
砥部町	6	13	19	0	1	1	1	2	3
内子町	2	6	8	0	2	2	1	0	1
今治市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
合計	8	22	30	0	4	4	2	2	4

【年齢区分別構成状況】 平成30年03月31日現在

単位：人

年齢区分	男	女	計
70歳～74歳	0	0	0
75歳～79歳	2	0	2
80歳～84歳	0	4	4
85歳～89歳	4	8	12
90歳～94歳	1	5	6
95歳以上	1	5	6

【平均年齢】 平成30年03月31日現在 単位：歳

項目	男	女	全体
平均年齢	86.3	89.7	88.8
最高齢	95	100	
最年少	75	81	

【要介護度別人数】 平成30年03月31日現在 単位：人

要介護度	1	2	3	4	5	計
男	0	0	1	3	4	8
女	0	3	2	7	10	22
計	0	3	3	10	14	30

【通院状況】

単位：人

科別	内科	皮膚科	眼科	整形外科	脳外科	婦人科	歯科
実人数	121	14	7	4	2	1	2
延べ人数	222	21	7	6	2	1	3

【入院経過状況】

	入院日数	入院期間	入院原因
ケース.1	3日	H29.03.30 ~ 04.04	心不全・尿路感染症
ケース.2	6日	04.18 ~ 04.25	肺炎・肝機能障害
ケース.3	6日	04.18 ~ 04.25	肺炎
ケース.4	28日	06.19 ~ 07.18	胆のう炎
ケース.5	11日	08.07 ~ 08.19	蜂窩織炎・尿路感染症
ケース.6	52日	11.19 ~ H30.01.11	蜂窩織炎・肺炎・食道潰瘍
ケース.7	10日	H30.02.27 ~ 03.10	肺炎
ケース.8	21日	03.09 ~ 03.31	間質性肺炎・サブイレウス
計	137日		

※ 28年度入院者数 6人 延べ入院日数 79日 ※ 入退院日は入院日数に含めない

〔2〕事業内容

（1）ユニットの状況

- ◆一丁目ユニット・・・男性：4人 女性：11人 平均年齢：87歳 平均介護度：4.2
職員数：6人

29年度は、2人の看取りを行った。1人は特養ひろた開設時からの利用で、危機的な状況を何度も乗り越え、16年の月日とともに過ごすことができた。食べることが楽しみな方で、身体状況に応じて食事形態を調整したり、本人の嚥下しやすい硬さの寒天をユニットで作ったりと工夫を重ね、「最期まで口から食べる」ことができた。もう1人は夫婦で入所しており、体調を崩し入院されたものの回復の兆しが見られず、「夫婦の時間を大切にしたい」との想いでひろたに戻られた。退院後1ヶ月ではあったが、妻は夫に付き添い、励まし、見送ることができた。職員は残された夫婦の時間をどう過ごしていただくかを考え支援を行った看取りであった。



【居酒屋】

- ◆三丁目ユニット・・・男性：2人 女性：13人 平均年齢：90.6歳 平均介護度：4.0
職員数：5人

29年度は、2人の利用者が満100歳を迎えることができ、砥部町長より表彰を受け施設全体でお祝いをした。また、毎月利用者と一緒に食事作りを実施し、材料を切る作業から味付け等も利用者に伺いながら行うことで、利用者の生き生きとした姿をみることができた。いつも食事の進まない利用者も食欲が増し、五感を刺激することの効果を感じていく機会となった。

今後も利用者一人ひとりが、自分らしく安心して生活できる場を提供するために、日々の小さな関わりから信頼関係を構築し、多くの笑顔を引き出していけるよう丁寧なケアを心がけていきたい。



【100歳のお祝い】

(2) 行事報告

【全体行事等】 ※毎月各ユニットで食事作りを実施

月	日	行事名	場所	
04	13 23	お花見 16周年記念感謝祭	デイサービス中庭	 <p>【感謝祭】</p>
05	24	居酒屋		 <p>【居酒屋】</p>
06	25 30	家族の会総会 家族の会総会予備日		
07	12	ユニット合同食事会	特養ひろたピロティ	
08	09 14 23	しあわせの集い 総津地区盆踊り そうめん流し	国際ホテル松山 特養ひろたピロティ 特養ひろたピロティ	 <p>【総津地区盆踊り】</p>
09	18	広田小学校運動会	広田小学校グラウンド	
10	01 05	物故者を偲ぶ会 秋刀魚の会	デイサービスホール 特養ひろたピロティ	
11	02 10 20 21 26	敬老会 回転寿司 道後一泊旅行 " 家族の会総会 大掃除・いもたき会	友輪荘	 <p>【敬老会】</p>
12	25 28	クリスマスケーキ作り もちつき		
01	01	年賀式		
02	28	外食	道の駅せせらぎ (旧小田町)	
03	28	職員送別会		

【地域・ボランティア交流】

月	日	活動内容	団体および個人名	
04	03 06	散髪ボランティア おはなしかい	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所	
06	01 22	おはなしかい 駄菓子屋	砥部町立図書館・広田保育所 橋本商店	 <p>【おはなしかい】</p>
07	27	民生児童委員施設訪問	砥部町民生児童委員	
08	03 07 08 14 23	おはなしかい 散髪ボランティア 高市地区介護予防教室 総津地区盆踊り そうめん流し	砥部町立図書館・広田保育所 髪切りクラブ 砥部町介護福祉課 広田保育所	
09	14 14	中野川地区介護予防教室 米寿者表彰式	砥部町介護福祉課 砥部町介護福祉課	
10	02 11 12 14 17 20 23 25 26	散髪ボランティア カレーを食べる会 多居谷地区介護予防教室 広田保育所運動会 砥部町老人クラブ 施設訪問 広田保育所 お神輿来所 地方祭 砥部中学校職場体験学習 〃	髪切りクラブ 独居友の会 ひろた 砥部町介護福祉課 広田保育所 砥部町老人クラブ 広田保育所 砥部中学校 〃	 <p>【地方祭】</p>
11	08	いのこ		
12	04 07 07	散髪ボランティア おはなしかい 独居友の会 施設訪問	髪切りクラブ 砥部町立図書館・広田保育所 独居友の会 ひろた	
01	22	100歳表彰式	砥部町長 砥部町介護福祉課	 <p>【100歳表彰式】</p>
02	05 23	散髪ボランティア 広田小学校交流会	髪切りクラブ 広田小学校	

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会等で専門的に分析・検討し、方針決定する。

職名等 委員会等の名称	施設長	部長	生活相談員	看護主任	介護主任	管理栄養士	機能訓練指導員	介護支援専門員	ユニットリーダー	ユニットサブリーダー	ユニット職員	その他関係職員
(1) リーダー会	●	●	●	●	●	●		●	●			
(2) サブリーダー会			●	●	●			●		●		
(3) 排泄委員会			●	●	●	●		●	●			
(4) 介護力向上委員会			●	●	●			●		●		
(5) ユニット会議			●	●	●		●	●		●		●
(6) 事故防止委員会	●	●	●	●	●	●		●	●			
(7) 身体拘束廃止委員会			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(8) 褥瘡予防委員会	●	●	●	●	●	●		●	●			
(9) 感染予防対策委員会	●	●	●	●	●	●		●	●			
(10) 医療安全管理委員会	●	●	●	●	●	●		●	●			
(11) 苦情検討委員会	●	●	●	●	●	●		●	●			●

(注) 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員

(1) リーダー会

(開催日) 毎月最終水曜日

(主な協議事項) アクションプランについて、ユニット報告、業務連絡

開催日	内容
H29.04.26	各ユニットでの食事作りについて 介護ロボット効果測定実施説明
05.24	施設内研修について 介護ロボット効果測定開始
06.28	家族の会総会開催報告 新人職員の指導方法
07.26	接遇について 備品管理について
08.23	施設内研修の参加方法を検討 リフレッシュ休暇取得
09.27	一泊旅行参加利用者選定 人事
10.25	施設事故の検討 施設設備工事のお知らせ
11.22	業務内容検討 家族の会総会について
12.28	夜勤体制加算取得にむけた検討 緊急時の連絡方法変更
H30.01.24	風邪等感染者への食事提供方法
02.28	時間外勤務 避難訓練
03.26	新人職員の指導方法検討 施設内研修の検討

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故防止対策、ケース検討、ケアの方向性・確認

開催日	内容
H29. 04. 11	事故検討(経管栄養、配薬ミスについて) 新人職員の指導方法
05. 09	事故検討(内出血、擦過傷) 介護ロボット効果測定
06. 13	事故検討(足の腫脹) 内出血に関する事故報告書作成について
07. 12	事故検討(夜間転倒)
08. 09	事故検討(表皮剥離、擦過傷) 移乗用リフトの使用方法的検討
09. 13	事故防止対策検討(移乗)
10. 11	事故検討(配薬ミス)
11. 08	事故検討(誤薬、骨折)
12. 12	事故防止対策検討(骨折)
H30. 01. 10	事故検討(内出血) 認知症状のある独歩利用者の対応方法的検討
02. 27	事故検討(転倒)
03. 14	事故検討(転倒) 新人職員の指導方法

(3) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと尿取りパッドの適正使用を検討する。

機能性尿失禁の利用者の排泄パターンを見直す。

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・尿取りパッドの見直し

月日	内容	月日	内容
H29. 04. 11	目標説明	10. 11	利用者3人の排泄見直し
05. 09	利用者4人の排泄見直し	11. 08	利用者3人の排泄見直し
06. 13	利用者4人の排泄見直し	12. 12	利用者6人の排泄見直し
07. 12	利用者4人の排泄見直し	H30. 01. 10	利用者3人の排泄見直し
08. 09	利用者4人の排泄見直し	03. 14	利用者2人の排泄見直し
09. 13	利用者4人の排泄見直し		

《振り返りと目標》

28年度から引き続き、排泄の見直しに取り組み、下剤の使用者は6人から3人に減少した。また、尿路感染症での入院者も28年度の4人から2人に減らすことができた。ケアのチェックと見直しを繰り返し行うことで、改善につながったのではないかと考える。

今後の課題として、パッドの種類を変更したため、皮膚トラブル等が発生しないよう状態を観察し、より快適に生活していただけるよう支援していきたい。またパッドの見直しを随時行いコスト削減にもつなげていきたい。

(4) 介護力向上委員会

(目的) 困難なケースを多職種で話し合い、ケアの方針を検討する。

(開催日) 毎月第4火曜日

(主な協議事項) 個別のケース検討・困難なケースの検討

月日	内容	月日	内容
H29.04.26	感染予防対策の検討	10.25	事故検討
05.24	加算要件の確認	11.22	骨折した利用者の介助方法の検討
06.28	新規ショートステイ利用者のケア統一	12.28	新規ショートステイ利用者のケア統一
07.26	事故検討	H30.01.24	特養新規利用者のケア方法を検討
08.23	認知症による周辺症状のある利用者へのケア方法を検討	02.28	特養新規利用者のケア方法を検討
09.27	車いす購入検討	03.26	身体拘束の注意喚起

《振り返りと目標》

新規ショートステイ利用者に認知症による周辺症状が見られる事例への対応・検討が多かった。その都度水分量・排泄・職員との関係性等ケアの見直しを行うことで、症状が緩和し、現在では落ち着いて利用していただいている。新規利用者・新規ショートステイ利用者とも、入居前後にケアの方向性の話し合いを重ね、手厚いケアを行うことで、安定した生活・事故予防につながる委員会運営ができたのではないかと考える。

ユニットリーダーと主任によるダブルチェックが定着してきたため、30年度から介護力向上委員会は廃止とし、困難事例等はリーダー会で検討していく。

(5) ユニット会議

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

【一丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H29.04.17	介護ロボットの導入説明 夜勤帯の記録共有方法	10.17	総合記録シートの記入漏れ防止 デイサービスとの合同レクリエーション
05.18	加算算定要件について確認	11.16	骨折事故についての検証 特養新規利用者のケア検討
06.20	利用者の体調管理の留意点【衣類調整等】	12.18	感染予防 忘れ物防止策の検討
07.16	丁寧なケアの徹底	H30.01.17	業務改善検討 感染予防 パッドの変更
08.22	モーニングケアの徹底	02.19	デスカンファレンス
09.18	居室環境整備	03.23	リビング環境整備 デスカンファレンス

【三丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
H29.04.18	介護ロボット導入説明 夜勤帯の記録共有方法	10.24	総合記録シートの記入漏れ防止 デイサービスとの合同レクリエーション
05.19	加算算定要件について確認	11.17	接遇に関して ケア統一の必要性
06.27	利用者の体調管理の留意点【衣類調整等】	12.22	感染予防 忘れ物防止策の検討
07.25	特養新規利用者のケア検討	H30.01.18	業務改善検討 感染予防 パッドの変更
08.21	モーニングケアの徹底 リビング環境整備の実施	02.25	デスカンファレンス 特養新規利用者のケア検討
09.22	居室環境整備	03.22	リビング環境整備 特養新規利用者のケア検討

(6) 事故防止委員会

毎週各ユニットで事故分析を行い、困難なケースに関してはサブリーダー会で分析及び改善策を再検討する。

① 件数

ヒヤリハット報告書・・・102件

- 《危険度0》 … 事故を未然に防ぐことができた 16件
 《危険度1》 … 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 86件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	3	2	3	18	10	10	2	5	6	5	10	13	87
ショートステイ	0	0	1	4	0	1	1	2	2	2	0	2	15
合計	3	2	4	22	10	11	3	7	8	7	10	15	102

事故報告書・・・71件

- 《危険度2》 … 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要 38件
 《危険度3》 … 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用) 32件
 《危険度4》 … 濃厚な処置や治療を要した(骨折・縫合・入院等) 1件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	3	8	8	2	7	3	1	7	6	3	2	5	55
ショートステイ	3	1	0	1	1	0	0	3	1	1	2	3	16
合計	6	9	8	3	8	3	1	10	7	4	4	8	71

② 医療機関へ受診したもの・・・1件

ケース.1	原因不明の左上腕骨骨折
-------	-------------

③ 事故内容と年間件数

		要支援 1	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	年間件数
骨折		0	0	0	0	1	0	1
医療	胃瘻接続部抜去	0	0	0	0	1	3	4
	配薬・服薬ミス	0	1	1	2	1	1	6
	バルンカテーテル抜去	0	0	0	0	0	3	3
内出血	不明	0	0	0	3	10	10	23
	環境不備	0	1	0	4	8	23	36
皮膚剥離		0	0	0	1	4	5	10
転落	ベッド	0	0	5	8	4	6	23
	車いす	0	0	1	2	2	2	7
	ソファ	0	0	1	0	0	6	7
	トイレ	0	1	2	1	0	3	7
擦過傷		0	0	0	0	2	3	5
誤嚥		0	0	0	0	0	3	3
介助中の事故		0	0	0	4	3	4	11
一人で1階に下りる		1	1	2	1	0	0	5
その他		0	3	1	2	13	3	22
合計		1	7	13	28	49	75	173

⑥ 分析

29年度は、内出血について重点を置き、全ての内出血の報告を挙げ、環境面や職員の介助方法を中心に見直しを行った。ヒヤリハットの報告件数は増えたが、早期発見につながり大きな事故に至る前に対応できたことも多い。

分析の結果、環境面で多かったのは、居室トイレのペーパーホルダーに接触してできる内出血で、保護カバーをすることとした。原因不明の内出血については介助の際にできたものと仮定し、介助方法を検討した。また要介護度が上がるにつれて、内出血の報告件数が増えていることから、移乗介助時のリスク軽減が必要と考える。介護機器を活用した「持ち上げない介護」を行い、継続してケアの見直しと職員指導をしていくことが必要である。環境面を整え、介助方法の統一を図って事故件数が減るよう取り組んでいく。

また、利用者が一人で1階に下りてしまう事例も多く見られた。特に新規のショートステイ利用者に多く、慣れない環境のため帰宅願望が現れたためだった。万が一1階に下りた際に職員が気付くようドアチャイムを設置し、管理部とも協力して見守りを行うとともに、落ち着いて過ごせる環境作りや対応方法を統一したことで、現在は落ち着いて過ごしている。

骨折事故に関しては、緊急のユニット会議を開き、行ってきた介助方法を検証した結果、移乗介助時は、移乗用リフトを使用すると決めていたにもかかわらず、徹底できていなかったこ

とが分かった。介助方法が統一できていないため、事故発生原因が特定できないというとても残念な結果となってしまった。今後は決められたことを守り、確実な介助と丁寧なケアを徹底していく。

(7) 身体拘束廃止委員会

(目的) 身体拘束のないケアを行う。

開催日	追加議題
H29. 06. 20 06. 27	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用者の状況
09. 18 09. 22	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用者の状況
12. 18 12. 22	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵、よべーるの使用者の状況
H30. 03. 22 03. 23	センサーマット、長いベッド柵の使用者の状況

《振り返りと目標》

29年度も身体拘束を行うケースはなかったが、環境や体調の変化から不穏になるケースがあり、事故が起きないように環境整備を行い、センサーマットを使用する等の対応策を講じた。事故防止を中心に考えると身体拘束につながる恐れがある。今後も継続して身体拘束の事例が発生しないよう、利用者の状態を細やかに観察し随時検討していく。

(8) 褥瘡予防委員会

(目的) 褥瘡予防と早期発見、対応を行う。

開催日	追加議題
H29. 06. 28	ハイリスク者の抽出(5人) 前回との比較・原因分析 除圧の検討(マルチグローブ購入)・体位変換の徹底
12. 28	ハイリスク者の抽出(8人) 前回との比較・原因分析 ターミナル期の利用者の対応、ポジショニングの検討

《振り返りと目標》

年2回の健診結果から、褥瘡発生リスクを点数化している。ハイリスク者数は平均5~6人だったが、利用者の身体状態の低下に伴い12月には8人に増加した。体位変換と合わせてマルチグローブでの除圧を徹底し、定着したことで褥瘡は発生しなかった。今後も褥瘡が発生しないよう気をつけてポジショニング等を行っていく。

(9) 感染予防対策委員会

(目的) 感染予防及び発生時の対応と検討を行う。感染対策に関する職員研修を行う。

開催日	追加議題
H29. 06. 28	4月に発生した風邪の蔓延の原因・対策の検討
09. 27	手洗い・うがいの徹底 感染予防の注意喚起

12.28	インフルエンザ・ノロウイルス感染予防の注意喚起 加湿の徹底（加湿器購入検討） 12月に発生した風邪の蔓延により、職員は体調不良時に必ず報告するよう徹底
H30.03.26	インフルエンザ・ノロウイルス感染報告 引き続きの注意喚起 職員の1ケア1手洗いの徹底

《振り返りと目標》

職員1人がインフルエンザ感染したが、早期対応にて拡大しなかった。しかし、4月12月に風邪が蔓延し、利用者2人が入院となった。体調不良時の対応や1ケア1手洗いの徹底を図った。今後も風邪をはじめ感染予防を徹底して行う。

（10）医療安全管理委員会

（目的）医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

開催日	追加議題
H29.06.28	医療事故2件報告 ショートステイ利用者の配薬再確認の徹底
09.28	医療事故3件報告 胃瘻を造設している利用者の服薬ミス予防の検討 痛み止め服用間隔の徹底・連携
12.27	医療事故2件報告 ショートステイ利用者の服薬状況把握の検討
H30.03.26	医療事故6件報告 バルン留置をしている利用者のチューブ抜去予防の検討 胃瘻を造設している利用者の栄養注入中の接続部抜去の原因分析・防止の検討

《振り返りと目標》

28年度に比べ医療事故の件数が3件増加した。誤薬や配薬ミス、胃瘻を造設している利用者の栄養注入中の接続部抜去が散発している。

誤薬・配薬ミスに関しては看護職、介護職が連携して、ダブルチェックの徹底を図っているが、定期的に発生してしまった。今後も定期的に注意喚起やチェックの方法の検討を行い、連携することで医療事故ゼロを目指す。

経管栄養を使用している利用者が増え、経管栄養チューブに関する事故のリスクが高くなり事故も増加した。今後も身体拘束を行わず、かつ安全に経管栄養注入を行う方法を随時検討する。

（11）苦情検討委員会

（目的）利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：1件

苦情内容：家族から差し入れされた食品を冷蔵庫に入れたまま提供していなかった。

対応内容：①差し入れがあった場合は、賞味期限を確認する。

②預かったものは必ず毎日提供し、賞味期限内に食べていただく。

〔４〕その他の会議

（１）第三者委員会

第１回：平成 29 年 09 月 08 日（金）15:00～16:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3 人

協議議題：施設環境確認、28 年度事業報告、監事監査報告、28 年度の苦情受付報告及び事故について報告、意見交換

意見等： ユニットによって介護度の差があるため、介護度別に事故の分析を行うことで、広い視野で事故分析ができるのではないかと。

第２回：平成 30 年 03 月 28 日（水） 15:00～16:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3 人

協議議題：苦情受付状況及び事故についての報告

意見等： 家族から預かった食品の提供について、1 件苦情受付したことに対して、これから夏場にかけて食中毒の時期にもなるため、食品の適正管理をする必要がある。賞味期限等に気を付けて、しっかり管理してほしい。

事故に関して、高齢になると皮膚が弱くなり、内出血になりやすいが、介助中になったことも考えられるため、介助方法の検討、統一を図ることは事故対策として大切である。

（２）利用者相談会「いどばた会議」

砥部町介護相談員が施設に来所し、定期開催する。

利用者は毎回楽しみにしており、介護相談員に地域の出来事を聞いたり、施設での日々の様子を話したりしている。また、介護相談員より、職員では聞き出すことができない利用者の声を施設に伝えてもらうこともあり、利用者にとって心強い存在となっている。

開催日	相談員数	相談利用者数	開催日	相談員数	相談利用者数
H29. 05. 24	3	13	10. 18	3	16
06. 21	3	17	11. 15	3	12
07. 18	3	14	12. 20	3	20
08. 16	3	15	H30. 01. 17	3	18
09. 20	3	11	02. 21	3	17

※ 4 月及び 3 月は未実施

（介護相談員から報告された利用者の声及び質問事項とその対応）

報告事項／質問事項	対策・理由
H29. 07. 18 ・日中時間が長く、退屈であるとの意見あり。	・レクリエーションの時間確保は施設にとっても今後の課題である。検討していくことを伝える。
09. 20 ・身体の痛みが強い利用者があるが、対応方法	・看護と連携を取りながら内服薬の調整を行っている。

<p>どのようにしているのか。</p>	<p>また訴えの多い時は、職員が付き添い傾聴している。</p>
<p>H30. 01. 17</p> <p>・そりの合わない利用者の方がいる様子。不満が溜まっている。今後も介護相談員が不満のある利用者の相談に乗っていく。</p>	<p>・時に言い合いになり、仲裁に入ることもある。今後も席替え等工夫していく。継続して相談にのってもらいたいと伝える。</p>

(3) 家族の会

施設利用者の家族同士の親睦や施設職員との交流により相互理解を深め、施設の運営や介護サービスにおける意見交換や課題解決を行い、サービス内容の向上を図ることを目的とする。また利用者の家族へ施設行事の積極的参加を促し、利用者の施設生活をより良いものとする。

○H29. 04. 22・23

感謝祭前日準備・感謝祭屋台運営

○H29. 06. 25・30（予備日）

総会・・・19 家族 20 人、面談 19 家族

総会予備日・・・6 家族 7 人、面談 6 家族

※面談が実施できなかった家族については後日、面談を実施

○H29. 09. 23

草刈りボランティア・・・12 家族 14 人

○H29. 11. 26

家族の会総会・大掃除・・・15 家族 15 人

いもたき会・・・13 家族 14 人



【感謝祭屋台運営】



【家族の会総会】



【車いす寄贈】

感謝祭での屋台運営と隔年で開催しているフリーマーケットも、家族の会の活動として定着している。29年度は、フリーマーケット売上金を基に、車いすを購入し施設に寄贈をした。

〔5〕 その他の事業

各地区の介護予防教室

【介護予防教室】

地区の集会所で行われる介護予防教室に、特養ひろた利用者も里帰りを兼ねて参加した。「おかえり」と出迎えてもらい、地域とのつながりを感じる貴重な時間となっている。今後も継続して参加をしていきたい。



【介護予防教室参加の様子】

3. 在 宅 部 門

〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた

【平成 29 年度目標の評価】

【重点目標】 できるだけ住み慣れた家、地域に住み続けられる支援

- (1) 生活状態（水分・栄養・排泄・運動等）を把握し、ケアプランに反映させていく
- (2) 利用者の生活状態・現在の希望・今後の希望事項の把握
- (3) 地域包括支援センターと連携し、安心して暮らせる地域作りを進めていく

28 年度脱水症等にて入院した利用者を中心に、各事業所に水分摂取量の目安の情報を伝えた。合わせて本人・家族にも水分摂取の必要性を伝えることにより安定した水分摂取ができ、脱水症にて入院することなく在宅で生活することができた。運動の必要性についても利用者に説明・実践することにより、身体機能の改善が見られリハビリに対する意欲が増してきた。今後も継続して在宅で生活する上で必要なことを伝えていきたい。

28 年度より末期癌の診断を受ける利用者が徐々に増えてきた。できるだけ住み慣れた自宅で生活ができるよう支援やアドバイスを行い、29 年度は利用者 1 人が在宅で最期を迎えた。苦痛の緩和や、医療的処置が必要との判断にて病院で最期を迎えた利用者も、家族、サービス事業所の協力のもとサービスを利用しながらできる限り自宅で生活を続けることができた。

独居等の理由により長期のショートステイを利用しながら特別養護老人ホームの入所を待つ利用者が増えてきており、自宅に帰るにはどのような支援や対応が必要か課題として残る。

地域包括支援センターと地域連絡会等にて情報を共有することにより、早めに細やかな対応を行い、要介護状態になることなく、サービスを利用しながら自宅での生活が続けられるような支援ができた。また、配偶者が亡くなり独居生活を送っている家族への声掛けを行い、うつ症状の発症等を予防できた。今後も継続して声掛け等を行い、状態の把握をし独居でも住み慣れた自宅でできるだけ生活できるような支援を包括支援センターや地域の民生児童委員等と協力していきたい。

(1) 運営状況

【利用状況推移】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	38 (7)	38 (7)	38 (8)	39 (8)	38 (9)	43 (9)	45 (10)	44 (11)	47 (10)	46 (10)	44 (8)	42 (9)	41.8 (8.8)

※ 28 年度月平均利用人数 32.7 人 (6.5 人) 28 年度比 27.5%増

() 介護予防

(2) 事業内容

【契約利用件数】

() は 28 年度比

地 区	契約者数	平均介護度
総 津	19 (+4)	2.2
玉 谷	11 (+1)	3.2
高 市	7 (+4)	1.2
満 穂	7 (+3)	2.2
多居谷	8 (+5)	2.1
仙 波	8 (±0)	2.1
中野川	8 (+3)	2.0
広田地区以外	9 (+7)	3.0
合 計	77 (+27)	2.2

※平均介護度介護予防含まず。

【サービス利用数】 平成 30 年 03 月 31 日現在

利用サービス	人数	割合 (%)
1 種類	25	49.0
2 種類	16	31.3
3 種類	10	19.6
合 計	51	

※介護予防含む

【サービス利用の多い組み合わせ】

1 種類	通所介護	12 件	短期入所	6 件
2 種類	通所介護+短期入所		4 件	
3 種類	通所介護+福祉用具貸与+短期入所		7 件	

【介護度別利用実人数】 平成 30 年 03 月 31 日現在 平均要介護度：2.1 (28 年度：1.7) () は 28 年度比

	要支援		要介護					合計
	1	2	1	2	3	4	5	
男性	1	1	7	1	7	0	2	19(+2)
女性	2	5	10	8	5	1	1	32(+13)

29 年度は新規利用者が増え、デイサービスからサービスの利用を開始することが多く見られた。その中でも地域とのつながりを希望する利用者が増えており、比較的、家事等自分で行うことはできるが、隣近所も離れていることや、免許の返納等により外に出る機会が減っているためと思われる。今後も聞き取りを行いながらニーズに合った在宅での生活支援を行いたい。

(3) 苦情受付

受付件数：0 件

(4) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第 4 金曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

【2】 たちばなの家じゃんけんぽん

【平成 29 年度目標の評価】

【重点目標】 稼働率の向上と新規利用者の獲得

(1) 利用者数 介護：130 人/月 予防：30 人/月を目標に広報活動を継続する

(2) カンファレンスやアセスメントを充実させ、利用者の変化に合ったケアを実践する

(3) 研修を通じてマニュアルの見直しを行い、ケアの統一化を図る

29年度も、28年度に引き続き松山市内40ヶ所ほどの居宅介護支援事業所を毎月訪問し、活動内容等の広報活動を行った。それに伴い、新規利用者の紹介や利用回数の増加により10月以降の稼働率が70%後半から80%に達し、月平均の利用者数は、介護130.7人、予防27.5人とほぼ目標を達成した。今後も引き続き、丁寧なケアを実践し、利用したいと思ってもらえる支援を行いたい。また、訪問では活動内容や支援内容を紹介した広報紙を作成して伝えていきたい。

カンファレンスは、常に職員全員で話し合いをして、課題の共有と解決に努めた。アセスメントは十分な内容とは言い難い部分もあったが、本人・家族から聞き取りを行いその内容をカンファレンスに生かし、実践・対応することで状態に変化の見られた利用者もいた。要支援1から要介護5までと介護度の幅が広いが、少人数の事業所である利点を生かして十分に満足頂ける個別ケアの実践を30年度は実施していきたいと考えている。

マニュアルの見直しについては職員全員で実施し、業務の改善やケアの統一を図ることができた。

30年度は、積極的な外部研修への参加や自己啓発により、個々の資質の向上を図っていきたい。

(1) 運営状況

29年6月より土・日休業に変更

定員10人 29年度稼働率・・・73.9% (通所介護+介護予防:257日稼働)

28年度稼働率・・・56.8% (通所介護+介護予防:258日稼働)

【通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	14	14	10	10	10	10	12	12	12	12	10	11	137
利用延人数	126	144	132	114	124	117	137	145	141	135	126	128	1,569

※ 28年度延利用人数 1,170人(258日稼働) 平均年齢86.8歳 平均要介護度2.2

【介護予防通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	4	4	5	5	5	5	6	6	5	5	6	6	62
利用延人数	26	25	26	27	30	28	27	33	27	23	28	30	330

※ 28年度延利用人数 298人(258日稼働) 平均年齢81.0歳 平均要支援度1.8

【介護度別利用実人数】平成30年03月31日現在

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用実人数	3	3	7	1	2	0	1	17

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均回数
要支援1	9	8	9	11	11	11	12	16	10	7	12	10	126	10.5
要支援2	17	17	17	16	19	17	15	17	17	16	16	20	204	17.0
要介護1	26	43	40	34	40	44	59	65	68	64	61	69	613	51.0
要介護2	25	25	22	19	18	17	18	17	17	17	17	16	228	19.0
要介護3	52	58	61	54	57	48	52	34	27	31	28	26	528	44.0
要介護4	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0.9
要介護5	16	14	9	7	9	8	8	29	29	23	20	17	189	15.7
合計	152	169	158	141	154	145	164	178	168	158	154	158	1,899	158.2
稼働率(%)	72.3	76.8	71.8	67.1	66.9	69.0	74.5	80.9	80.0	79.0	77.0	71.8	73.9	

(2) 事業内容

月	日	行事名	場所	
04	02	お花見	石手川緑地公園	 【松前 ひよこたん公園】
	13	お花見	ひよこたん公園	
	18	ショッピング	エフ・マルシェ 古川店	
05	11	外食	ガスト 東本店	
	12	うどん作り	餃子の王将 南久米店	
	16	外食	ゑびす丸 南吉田店	
	28	ドライブ	堀江港周辺	
06	05	らっきょう作り	かんざし イオン天山店	 【梅シロップ作り】
	06	クラフト制作 (カップフラワー)		
	07	外食		
	08	梅シロップ作り		
	15	外食		
07	04	外食	寿司処 家族 平井店	 【七夕飾り作り】
	07	七夕飾り作り		
	13	外食	どんと フジグラン重信店	
	18	コサージュ作り		

08	10 17	パン作り 小物入れ作り		
09	04 06 12 14	餃子作り 外食 新聞紙バッグ作り 外食	ハンバーグけん 居相店 モミの木 平井店	
10	03 06 11 17 18 19	ドライブ うどん作り 外食 愛・民家連 合同運動会 ミニミニ運動会 外食	見奈良コスモス畑 餃子の王将 来住店 コープ朝生田 和良家 久米店	 【愛・民家連 合同運動会】
11	06 09 " 14・22	クッキング (お好み焼き) 外食 遠足 ショッピング	寿司処 ふる田 立花店 中山フラワーパーク ジョープラ	
12	01 06 12 19	干し柿作り クッキング (お好み焼き) クッキング (肉まん) 外食	かつ花 朝生田店	
1	04・05 09 13 18 25	初詣 外食 クッキング (鮭のちゃんちゃん焼き) 外食 ショッピング	井手神社 そば吉 北土居店 北斗七星 東石井店 ジョープラ	
2	01・02 08 12 14 22	コサージュ作り 散歩 クッキング (しゅうまい) ショッピング 椿神社参拝	イオン 朝生田店 ジョープラ 椿神社	 【椿神社参拝】
3	02 06 12 14 27・29	桜餅作り 外食 雛飾り 外出兼外食 お花見	かんざし イオン松山店 ツモ ハーバー テラス 高浜 石手川緑地公園	

(地域交流イベント)

29年度も広報活動の一環として地域交流イベントを実施した。

広田の農家や独居友の会ひろた会員の協力による「ひろた野菜市」は地域住民から開催日の問い合わせもある等、地域に定着してきている。また開催時刻よりも早くに会場へ、地域の情報交換の場ともなっている。8月に開催した「夏の集い」には多くの地域の方が来場され盛況なイベントとなりつつあり、それらを通して地域住民との交流を深めている。「編みかご作り」は常連の参加者も増え、また口コミで参加人数も増えてきている。12月に行ったもちつきも毎年恒例になり、28年度よりも多くの餅をついたが完売する人気となっている。

これまで定期的に地域交流イベントを開催してきたことにより、地域の一部になりつつあることが実感できた一年となった。今後も継続して地域行事の一環として提供していきたい。



【ひろた野菜市】



【編みかご作り】



【もちつき】

(3) 事故報告

① 件数

事故報告書・・・4件

《危険度3》 … 簡単な処置や治療を要した（消毒・ガーゼ保護、湿布） 4件

ヒヤリハット・・・3件

《危険度1》 … 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 3件

② 内容

バランス崩して転倒	4	洗身の力が強すぎて、手指間から出血あり	1
ボール体操中掴み損ねて、手指を皮膚剥離	1	ホットパックで温めた肩に低温火傷あり	1

③ 原因

職員の不注意	1	確認不足	3
利用者の不注意	2	見守り不十分	1

④ 件数の推移

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
15件	10件	10件	12件	7件

⑤ 分析

29年度は、アセスメント、マニュアルの見直しを行った結果、事故・ヒヤリハットともに減少につなげることができた。反省点としては、介助中に皮膚剥離、環境整備の不十分によって転倒した事故があった。これらは普段から注意していれば防げた事故であり、今後職員間で利用者の身体情報等の共有を十分に行い、未然に防ぐように改善していく必要がある。

ヒヤリハットは、転倒したものの大事に至らなかったケースであるが、一歩間違えば事故につながるケースであった。送迎時の介助方法等、今一度確認をし統一したケアを提供し、環境等も改善し、利用者が安全に利用できるように整えていく必要がある。

(4) 防火・避難訓練

- 実施日 平成 29 年 09 月 19 日 (火)
- 参加者 利用者 : 5 人 (全員参加)
職員 : 5 人
- 玄関より避難を実施



【防火・避難訓練の様子】

《評価》

避難は迅速で、短時間で完了することができた。自立度の高い利用者は率先して避難をしていた。定員の半分の利用者であったため、定員一杯の際避難誘導をいかに迅速かつ安全にできるかが課題として残る。

平成 29 年度 素鷲地区防災訓練

- 実施日 平成 29 年 09 月 03 日 (日) 08 : 30 ~ 12 : 00
- 参加者 職員 2 人
- 会場 拓南中学校 (グラウンド、体育館、柔剣道場)
- 内容 AED 訓練、搬送要領・トイレ設置訓練、煙体験他



【素鷲地区防災訓練案内】

《評価》

今回、民生児童委員から案内をもらい、防災訓練に参加した。普段、実施できない大規模な訓練で大変勉強となった。地域に根差した事業所として災害時には迅速に対応できるよう、事業所内でも研修・検討を行っていききたい。

(5) 運営推進会議

- 日 時 : 平成 29 年 05 月 30 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 00
- 参加者 : 地域住民代表者 1 人、地域包括支援センター職員 1 人、利用者の家族 1 人
法人部長、たちばなの家管理者・生活相談員
- 日 時 : 平成 29 年 11 月 21 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 00
- 参加者 : 地域包括支援センター職員 1 人、利用者の家族 1 人
たちばなの家管理者・生活相談員

《評価》

利用者の家族からは、丁寧な関わりを評価していただき、「じゃんけんぽんの存在をもっとたくさんの人に知ってほしい」との意見があった。地域支援・交流行事に関しても地域とのつながりとして続けてもらいたいとの意見をいただいた。日頃の活動内容等をもっと地域に広報してはどうかという意見や、また、地区にある福祉事業所が協働して地域住民へ事業所の特徴や活動内容の説明をする機会があればとの意見もあった。

出席者が少ないことは反省すべき点であり、会議の開催日時や案内方法については、今後の検討課題としたい。

(6) 苦情受付

受付件数 : 0 件

(7) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、在宅部主任、たちばなの家職員

(主な協議事項) ケース検討・各委員より連絡相談・事故検討・アクションプラン・その他

開催日	協議項目
H29. 04. 20	レクリエーションの提供方法検討 マッサージ・リハビリの検討
05. 18	6月より曜日変更(土日休業)の対応 脱水等注意喚起
06. 19	運営推進会議報告 目標の評価・検討 人事
07. 19	安全運転注意喚起 アセスメント・マニュアル更新・研修会の開催
08. 17	体調管理の徹底 30年度介護報酬改定
09. 21	送迎時の注意喚起 経費節減
10. 19	車両事故検討 体調管理の徹底 インフルエンザの注意喚起 経費節減
11. 16	感染症注意喚起 車両導入に向けて相談 口腔ケアの検討
12. 20	安全運転注意喚起 感染症注意喚起 理事会報告
H30. 01. 17	インフルエンザ対策 通勤経路書類提出
02. 21	安全運転注意喚起 防火対策等 30年度介護報酬改定
03. 21	体調管理注意喚起 物品購入検討 人事

〔3〕 砥部町デイサービスセンター (砥部町委託事業)

【平成 29 年度目標の評価】

【重点目標】 一日でも長く在宅生活が続けられる支援

- (1) 利用者数目標 介護：240人/月 予防：14人/月
- (2) 安定した体調で過ごせるよう、適正水分量を探り、水分摂取を促す
- (3) 個別リハビリに取り組み、下肢筋力の向上と転倒しにくい身体作りを目指す
- (4) 研修を通じてマニュアルの見直しを行い、ケアの統一化を図る

29年度中、6ヶ月は目標の240人以上の利用があったが、平均すると233人と目標を達成することができなかった。利用者から受診や私用等で休みの連絡を受けた際には、代替え利用日を提案したり、見当識障害のある独居利用者には、前日及び当日の朝、電話にてデイサービス利用の声掛けをしたりすることで継続した利用につながった。そうした日々の積み重ねにより、28年度よりも稼働率を0.6%アップすることができた。

利用時の水分摂取量900ccを目標とし、水分摂取の必要性を繰り返し伝えることで、安定した水分摂取につながった。日頃の水分ケアの積み重ねで、風邪を引くことなく安定した体調で冬季の厳寒にも負けず身心ともに健やかで元気な笑顔が多く見られた。102歳の最高齢利用者を筆頭に、利用者の1/3以上が90歳以上と職員も元気をもらっている。

体操のバリエーションを増やし、手軽にそして楽しく身体を動かすことができるよう工夫した。個別メニュー及び評価表を作成実施することで、利用者の積極的な活動意欲が見られ、「自分のために運動して、誰にも迷惑かけないように元気で広田におりたい」と意欲的な利用者が増加している。また運動後に水分摂取を促すことで、運動と水分のバランス

を考えた統一したケアに努め、転倒しない身体作りと風邪を引きにくい身体作りにつながったと思われる。日頃のケアの見直しを多職種で取り組み、マニュアルの見直しを図ったが、十分な成果には至らなかった。30年度も引き続き多職種で協力し見直していきたい。

(1) 運営状況

定員 20 人 稼働率・・・72.0% (介護+介護予防+総合事業)

【通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	25	27	26	28	27	30	32	32	34	30	30	29	350
利用延人数	201	249	247	204	231	223	255	275	251	213	197	258	2804

※ 28年度延利用人数 2707人 28年度比 3.5%増 平均年齢 87.2歳 平均要介護度 2.0

【介護予防通所介護】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	8	8	8	6	6	6	6	5	3	3	1	0	60
利用延人数	52	56	53	41	43	39	39	31	25	23	8	0	410

※ 平均年齢 85.5歳 平均要支援度 1.6

【総合事業】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	6	6	7	9	8	7	7	8	9	9	10	12	98
利用延人数	28	32	40	45	44	37	37	38	33	36	43	67	480

※ 28年度述べ利用人数 (介護予防+総合事業) 999人 28年度比 10.9%減 平均年齢 85.9歳

【介護度別利用実人数】平成30年03月31日現在

単位：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	2	5	5	13	8	6	1	1	41

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
事業対象者	4	3	4	4	5	4	3	1	5	4	3	6	46	3.8
要支援1	14	19	24	18	22	18	18	21	18	18	20	21	231	19.2
要支援2	62	66	65	64	60	54	55	47	35	37	28	40	613	51.0
要介護1	92	118	113	99	100	111	126	141	127	102	96	122	1347	112.2
要介護2	11	17	18	18	34	31	35	38	31	29	38	48	348	29.0
要介護3	84	96	101	76	76	70	80	78	73	64	50	65	913	76.0
要介護4	9	11	11	9	16	10	10	12	12	11	8	10	129	10.7
要介護5	5	7	4	2	5	1	4	6	8	7	5	13	67	5.5
合計	281	337	340	290	318	299	331	344	309	272	248	325	3694	307.8
稼働率(%)	70.2	73.2	77.2	69.0	69.1	71.1	75.2	78.1	73.5	68.0	62.0	73.8		72.0

(2) 事業内容

【通所介護】

月	日	行事名	場所
04	03 18	お花見 お花見	デイサービスホール 銚子ダム 
			【銚子ダム お花見】
05	10 17 19 25 26	お花見ドライブ たこやきパーティー 春野菜料理作り おやつ作り(ベビーカステラ) 茶もみ	多居谷地区 
			【藤棚 お花見】
06	05 19・22 21	梅ジュース作り おやつ作り(じゃがバター) 花見ドライブ	中山フラワーパーク
07	05 20 10~28	おやつ作り(白玉だんご) かき氷 七夕飾り作り	福祉センター
08	15 23	夏まつり たらいそうめん	デイサービスホール デイサービスホール
09	04 19	避難訓練 敬老会	
10	05 23 31	秋刀魚の会 地方祭 きのこご飯・おやつ作り(蒸しパン)	特養ひろたピロティ 特養ひろたピロティ 
			【秋刀魚の会】
11	02 09 15 18 23 27 28 29	特養ひろた合同敬老会 回転寿司 外出(紅葉観賞) シェイクアウトえひめ防災訓練 干し柿作り たくあん作り いもたき 特養ひろた交流レクリエーション	特養ひろた 2階 廣瀬神社 デイサービスホール

12	15・20	鍋パーティー(支援ハウス合同)	特養ひろた 2階	
	22	ゆず湯		
	25	クリスマスランチ		
	26	クリスマスケーキ作り		
	28	もちつき		
01	04	ふくわらい、書初め	デイサービスホール	
	17	おやつ作り (お好み焼)		
	18	新年会		
	24	白菜漬物作り		
	24	特養ひろた交流レクリエーション		
02	05	節分豆まき		
03	01	雛人形飾り		
	26	避難訓練		
	30	誕生会		

【クリスマスケーキ作り】

【ひな人形飾り】

※おやつ作り・食事作り栄養士と共同部門に関しては栄養士行事食に記載

【地域・ボランティア交流】

月	日	活動内容	団体および個人名	
04	06	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 友近 890 氏 特養ひろた	
	12	書道パフォーマンスライブ		
	23	ひろた開園 16 周年記念感謝祭		
05	11	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
06	01	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 人形げきやおたこぐみ・広田保育所・育児サークル・地域住民	
	06	おたこぐみによる三世代交流会		
07	06	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
08	03	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	
09	07	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所	

【書道ライブ】

【三世代交流会】

10	05	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 篠原弘康氏 砥んだ合唱団	 <p>【音楽ボランティア】</p>
	11	転倒予防教室		
	16	音楽ボランティア		
11	02	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 広田保育所・育児サークル・地域住民	
	22	三世代交流大運動会		
12	07	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 広田オカリナクラブ	
	12	音楽ボランティア		
02	21	広田小学校交流会	広田小学校	
03	01	おはなしかい	砥部町立図書館・広田保育所 アーティストグループエンゼル	
	12	演芸ボランティア		

(3) 事故報告

① 件数

事故報告書・・・7件

《危険度3》 …… 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用) 7件

ヒヤリハット・・・13件

《危険度0》 …… 事故を未然に防ぐことができた 0件

《危険度1》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 13件

車両事故報告書・・・3件

② 内容

転倒	4	利用変更連絡ミス	3
いすからの転落	2	利用日確認不足	2
送迎車内での事故	3	介助中(爪切り)の事故	1
食べ物が詰まりかける	1	持参物確認不足	1
所在不明	1	紛失	1
車いすからの転落	1		

③ 原因

見守り不十分	8	確認不足	2
マニュアル・ルール不遵守	3	環境不十分	2
連絡不十分	2	送迎車操作ミス	1
技術不足	1	行動予測不十分	1

④ 件数の推移

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
11 件	9 件	11 件	9 件	23 件

⑤ 分析

事故内容は、転倒 4 件あり、内 2 件がサービス終了間際の玄関での転倒事故となっている。このことに関して、早急にカンファレンスを行い事故原因分析と対応策の検討を行った。環境整備と職員の役割分担を明確にし、帰宅前の誘導ルール徹底に努めた結果、それ以降はサービス終了間際の転倒事故は発生しなかった。どんな些細なことでもインシデントとして報告書を作成し、カンファレンスにて事故分析と対応策を検討、情報共有を行うことで重大事故に至らなかった。

利用変更連絡ミスが 3 件と次に多く見られた。日頃から多職種間の報告・連絡・相談を確実に行うことで利用者とその家族との信頼関係を損なうことのないように努めていく。

(4) 苦情受付

受付件数：0 件

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、在宅部主任、砥部町デイサービス職員

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡

開催日	協議項目
H29. 04. 24	アクションプランの評価
05. 25	事故後の対応策確認
06. 16	送迎の対応方法
07. 24	マニュアルの見直し、作成
08. 24	職員間の情報共有
09. 22	アクションプラン達成のための方法検討
10. 27	業務を効率よく行うには、どうしたら良いか検討
11. 27	感染予防のための利用者、地域の人への声掛け
12. 21	リハビリ方法、評価等検討
H30. 01. 22	行事開催時の企画、報告を確実にを行う
02. 22	30 年度からの時間延長によるサービス内容の検討
03. 26	30 年度事業計画の検討

[4] 砥部町地域支援事業 (砥部町委託事業)

(1) 転倒予防教室

目的：転倒を予防し、骨折等により要介護状態にならないようにする。

○実施日：平成 29 年 10 月 11 日 (水) 14:00~15:00

○講師：篠原 弘康 氏 (作業療法士)

- 参加住民：13人
- 場 所：砥部町高齢者生活福祉センター
- 内 容：転倒予防対策の講話と簡単な体操



【転倒予防教室の様子】

《評価》

老化のリスクを下げる生活習慣として①睡眠時間 6.5 時間②ワクワクする趣味③栄養バランス良く 1 日 3 食摂取④コミュニケーションの 4 大要素が必要。これらをクリアすれば住み慣れた自宅で元気に過ごすことができる、と講師のユーモラスな講話は参加者を魅了した。第二部の“自分でできる体操”は、気軽にできるとあって「さっそく家に帰ってもやってみよう！」「今日は久しぶりに笑った！」という声もあり、地域の方を交えた楽しい交流の場となった。

(2) 地域住民グループ支援事業

目的：地域や世代間の交流を図ることにより、高齢者の生活意欲の向上を目指す。



【三世代交流会】

平成 29 年 06 月 06 日（火）参加者：31 人



【ぶどう狩り（内子町 富岡ぶどう園）】

平成 29 年 08 月 29 日（火）参加者：7 人



【三世代交流大運動会】

平成 29 年 11 月 22 日（水）参加者：28 人

(3) いきいき見守り配食サービス

目的：65 歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	3	4	5	5	5	5	6	7	6	5	5	5	61/5.0
延利用回数	24	34	40	39	42	41	50	51	37	30	29	37	454/37.8

《評価》

29 年度は積雪により、自動車での配達ができず、やむなく徒歩で弁当を届けることもあったが、安否確認も含めて滞ることなく実施できた。

今後も広田地区にて生活を続けていくために必要なサービスとして支援をしていきたい。



【積雪時の配食の様子】

〔5〕 支援ハウス（砥部町委託事業）

(1) 運営状況

定員 10 人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

※入居人数は月末入居人数

(2) 行事報告

月	日	内容	場所
04	03	お花見	デイサービスホール
	23	ひろた開園 16 周年記念感謝祭	主会場
06	25	カレーパーティー	支援ハウス談話室
08	14	総津地区盆踊り	特養ひろたピロティ
	26	支援ハウス食事会	和室
09	04	防災訓練	福祉センター
	20	敬老会	和室
10	23	地方祭	特養ひろたピロティ
11	02	特養ひろた合同敬老会	特養ひろた
	11	三世代交流大運動会	デイサービスホール
12	25	クリスマス会	支援ハウス談話室
	28	もちつき	特養ひろた
03	26	防災訓練	福祉センター

※ 砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

4. 会議等

〔1〕運営会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、たちばなの家管理者、砥部町デイサービス生活相談員、特養ひろた生活相談員、介護主任、看護主任、管理栄養士

(開催日) 毎月第2月曜日 17:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡・アクションプランの評価

開催日	協議事項等
H29. 04. 11	各部署の目標設定報告 事業報告準備 処遇改善加算
05. 20	介護ロボット効果測定 ダブルチェックの方法
06. 13	人事 介護の知識見直し 聖カタリナ大学就職説明会参加 報告書改善
07. 12	人事 保健指導情報の共同利用について
08. 09	人事 ブログ継続について 雇用管理改善推進事業
09. 13	人事 パッドの見直し 日直 環境整備の徹底
10. 25	特養2階の修繕工事について 防犯カメラ設置・非常用照明取り替え工事について ショートステイ・デイサービス利用増加に伴い今後の計画検討
11. 08	人事 運営委員会の開催場所 砥部町デイサービスセンターの営業時間変更について

	介護事故の原因究明について
12.13	人事 正規職員試験について 通勤手当の見直し 介護報酬改定の概要
H30.01.10	人事 パッドの業者見直し ショートステイ・デイサービス利用者の食事の当日キャンセルの食材費 30年度の法人の事業計画案について
03.14	人事 個別対応時のガソリン代徴収について 勤務変更調整 生活支援ハウスの夜間帯における対応 携帯電話新規契約の検討 法人車両ドライブレコーダー設置の検討 重要事項説明書の変更 介護報酬改定に伴う家族への説明等の確認 車使用料金変更 30年度の会議の見直し

〔2〕職員会

施設運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 毎月第1週目 16:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
H29.04.03	22	辞令交付 人事 施設内研修形態変更 個人情報の取り扱いの徹底 新給与規程に基づく本格付について説明
05.01	21	人事 アクションプランについて 災害時の連絡手段の変更
06.01	23	人事 加算算定について 監事監査報告 新規利用者のアセスメントの徹底 モーニングケアの徹底 28年度の事業報告
07.03	17	人事 やわらか食導入 ごみの出し方について 環境整備
08.01	21	人事 リフレッシュ休暇について 実習生受け入れ 室温管理 正規職員試験日程 ナイスアイデア賞発表 地域防災訓練
09.01	21	人事 実習生の状況報告 環境整備 利用者の体調管理 避難訓練の計画説明 やわらか食導入について 介護労働安定センターのアンケート実施報告 成長支援制度面談実施について
10.02	21	辞令交付 人事 記録の徹底 安全運転注意喚起 4月～8月の各部署の経過報告
11.02	14	感染予防注意喚起 ドライブレコーダー導入検討 年末調整書類提出について 浄化槽点検報告・対策
12.01	19	人事 体調管理・感染症予防注意喚起 防犯カメラ設置報告 正確な記録の注意喚起 移乗用リフトの正しい使い方について 感染マニュアル確認 賞与支給
H30.01.04	20	年頭あいさつ 人事 感染予防注意喚起 正規職員試験について ナイスアイデア賞発表 介護作文フォトコンテスト DVD 鑑賞
02.01	23	人事 感染症予防注意喚起 通勤時の事故について 30年度介護報酬改定に伴うコスト削減について
03.01	23	人事 法人連携活動の経過報告 時間外勤務の届出について 報酬改定・人事異動に伴っての連携強化

〔3〕 広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人および事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

29年度は、第35号(平成29年8月)、第36号(平成30年1月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配布した。

発行回数を増やし、各事業所の取り組み内容等の情報発信に努めたい。



【広寿第35号】

【広寿第36号】

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用を努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ

<http://www.koujukai-hirota.com/>

- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」

「たちばな便り じゃんけんぽん」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

《振り返りと課題》

法人全体で発行する「広寿」は2回の発行であったが、たちばなの家が独自発行する「たちばな便り じゃんけんぽん」は毎月発行し、利用者家族や居宅介護支援事業所から評価をいただいた。ブログに関しては、離れて暮らす家族にも利用者の様子を知っていただくことができる有効な手段となるため積極的に活用し、情報発信をしていきたい。

〔4〕 防災委員会

防災に関する知識を養い、その対策全般に関する検討および実行をする。

(参加者) 施設長、部長、防火管理者、居宅管理者、砥部町デイサービスセンター生活相談員、特養ひろた生活相談員、介護主任、看護主任、管理栄養士

開催日	協議事項
H29. 09. 04	第1回防災訓練の反省及び次回、訓練課題の検討 防災マニュアル見直し
H29. 12. 18	「シェイクアウトえひめ」地震防災訓練内容検討 防災マニュアル見直し・変更

① 防災訓練等の実施状況

29年度は砥部町防災パトロール、砥部町総合防災訓練に参加した。防災訓練では、福祉避難所としての受入訓練や防災倉庫の点検を行い、役割を再認識する良い機会となった。また、災害時に地域と迅速に協働できる体制作りも大切だと実感した。

特養ひろた、砥部町デイサービスセンター合同での防災訓練では、消防署の立ち合い指導の下、初期消火や通報等の行動を再確認した。また、消防設備業者にも訓練参加を依頼し、避難器具を使用しての訓練を実施した。日没後に可能な限り照明を落として行った夜間避難訓練は、非常に有意義で効果的な訓練になった。

年月日	訓練の名称及び内容	
H29. 08. 23	砥部町防災パトロール	 【災害発生危険箇所視察】
H29. 08. 27	砥部町総合防災訓練 (住民避難訓練、福祉避難所移送訓練、資器材取扱い訓練、救出訓練、消火訓練、長距離中継放水訓練、非常食炊き出し等の多岐に渡る訓練等)	 【福祉避難所移送訓練】
H29. 09. 04	第1回 防災訓練 (避難器具訓練、通報訓練、避難訓練、消火訓練) ※火災想定 ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービス合同 で実施	 【初期消火訓練】
H30. 03. 26	第2回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、消火訓練) ※特養ひろたは日没後に実施。	 【夜間避難訓練】

② 平成 29 年度病院及び高齢者福祉施設防火安全対策研修会

○日 時：平成 30 年 02 月 21 日 (水) 13 : 30～16 : 30

○場 所：伊予消防署

○参加職員：特養ひろたサブリーダー

○研修内容：講義…過去の火災発生状況、火災発生時の対応について

実技…火災対応訓練 (通報、初期消火、避難誘導)

体験訓練 (濃煙体験、消火器取扱い、SP 放水見学)

《研修に参加して》

伊予消防署管内の医療施設、福祉施設から関係職員が参加した。専門的立場からの指導・助言、そして具体的な講義があった。また、実際に濃煙状態となった場所での避難訓練もあ

り、貴重な体験ができた。実際に体験したことにより緊急時にはパニックにならないよう、迅速かつ確実に対応できるよう心掛けたい。

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員ともに取り組む。

(参加者) 委託業者、施設長、部長、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービス生活相談員、管理栄養士

(開催) 毎月1回

(主な協議事項) 利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容等

《総評》


定期的に毎月1回開催することで、各事業所からの提案や指摘を受けその都度利用者にあつた食の提供できた。また行事食等の計画を話し合うことで、季節ごとの行事食の提供ができた。

2月には、凍結による配管の破裂によって断水が約1日続いたが、臨機応変に厨房職員も対応でき、滞りなく利用者に食事を提供することができた。この経験を生かし、災害時の対応方法等再度検討を行っていききたい。

行事食

【施設部門】

月	日	行事	献立内容
04	03	お花見	ちらし寿司・鶏の唐揚げ・菜の花辛子和え・たき合わせ 鱈の漬けやき・ポテトサラダ・だし巻き玉子・オレンジ 桜餅
	23	開園16周年記念 感謝祭	うどん・やき鳥・お好みやき 天ぷら(しいたけ・さつまいも) カレーライス・デザート  【感謝祭デザート】
05	24	居酒屋	おにぎり・明太子スパゲティ・ミートスパゲティ コーンサラダ・厚焼き玉子・たこやき・やき鳥・鶏の唐揚げ
06	28	手打ちうどん	たらいうどん・おにぎり・天ぷら・酢の物・ごまプリン
07	24	祝い膳	巻き寿司・天ぷら盛り合わせ・鱈の西京やき・鶏の南蛮漬け やきナス・すまし汁・マスカットゼリー
08	23	そうめん流し	そうめん・おにぎり・鶏の唐揚げ・やきナス・枝豆 ホキの磯辺揚げ・玉子やき・枝豆・ぶどう
09	20	敬老の日祝い膳	巻き寿司・かぼちゃの煮物・ささみの挟み揚げ・かつお和え エビマヨ・すまし汁・いちごゼリー
10	05	秋刀魚の会	おにぎり・秋刀魚の炭火やき・鶏の唐揚げ・だし巻き玉子 ほうれん草のピーナツ和え・さつまいもの天ぷら・梨

11	09	回転寿司	にぎり寿司・赤だし 手作りプリン	 <p>【回転寿司の様子】</p>
	26	家族の会	おにぎり・いもたき・天ぷら盛り合わせ・フルーツ	
12	25	クリスマスランチ	バターロール・シーフードシチュー・サラダパンプキンポタージュ・プリン	
	25	おやつ作り	クリスマスケーキ	
	28	もちつき	餅バイキング・八幡巻き・ブロッコリーのごま和え・りんご	
01	01	お節料理	巻き寿司・刺身三点盛り・酢の物・たき合わせ・岩石玉子 抹茶ようかん	
	22	祝 100 歳の祝い膳	赤飯・刺身・天ぷら盛り合わせ・豚の角煮・ピーナツ和え・すまし汁 生クリーム大福	
02	21	祝い膳	にぎり寿司・かぼちゃの煮付け・鱈の西京焼き・鶏のささみフライ オクラのかつお和え・赤だし・いももち	
03	23	祝い膳	ちらし寿司・刺身・天ぷら盛り合わせ・ふろふき大根 花野菜の青しそ和え・すまし汁・ロールケーキ	

【在宅部門】

月	日	行事	献立内容
04	03	お花見	ちらし寿司・鶏の唐揚げ・菜の花辛子和え・たき合わせ 鱈の漬けやき・ポテトサラダ・だし巻き玉子・オレンジ・桜餅
	04	おやつ作り	甘酒
	05	おやつ作り	ぜんざい
	11	おやつ作り	ぜんざい
	13	おやつ作り	あべかわ餅
	19	食事作り	ちらし寿司
	21	食事作り	栗ご飯
06	28	手打ちうどん	たらいうどん・おにぎり・天ぷら・酢の物・ごまプリン
07	17	食事作り	たこ飯
	24	祝い膳	巻き寿司・天ぷら盛り合わせ・鱈の西京焼き・鶏の南蛮漬け やきナス・すまし汁・マスカットゼリー
08	23	たらいそうめん	そうめん・おにぎり・鶏の唐揚げ・やきナス・枝豆 ホキの磯辺揚げ・玉子やき・枝豆・ぶどう
09	20	敬老の日祝い膳	巻き寿司・かぼちゃの煮物・ささみの挟み揚げ・かつお和え エビマヨ・すまし汁・いちごゼリー
	29	食事作り	さつま芋ご飯

10	05	秋刀魚の炭火やき	おにぎり・秋刀魚の炭火やき・鶏の唐揚げ・だし巻き玉子 ほうれん草のピーナッツ和え・さつま芋の天ぷら・梨
	17	おやつ作り	ぜんざい
11	09	回転寿司	にぎり寿司・赤だし・手作りプリン
	22	三世代交流会	カレーライス・アスパラのごまマヨ和え・コンソメスープ 手作りプリン
	28	いもたき	いもたき・おにぎり・りんご
	30	おやつ作り	ぜんざい
12	11	おやつ作り	芋ようかん
	12	おやつ作り	蒸しパン
	15	鍋パーティー	寄せ鍋・鶏だんご鍋
	20	鍋パーティー	寄せ鍋・カレー鍋
	21	おやつ作り	さつま芋プリン
	25	クリスマスランチ	バターロール・シーフードシチュー・サラダ パンプキンポタージュ・プリン
	26	おやつ作り	クリスマスケーキ
01	04	おやつ作り	いももち
	05	食事作り	じゃが芋の照りやき
	17	おやつ作り	お好みやき
	18	おやつ作り	かぼちゃケーキ
	23	おやつ作り	ぜんざい
	25	おやつ作り	スイートポテト
02	05	おやつ作り	甘酒
	15	おやつ作り	きなこ餅
	16	おやつ作り	どらやき
	20	おやつ作り	ホットケーキ
	21	おやつ作り	さつま芋蒸しパン
		祝い膳	にぎり寿司・かぼちゃの煮付け・鱈の西京やき・鶏のささみフライ オクラのかつお和え・赤だし・いも餅
	28	おやつ作り	甘酒
03	07	食事作り	ちらし寿司・こんにゃくの金平
	09	おやつ作り	ぜんざい
	15	おやつ作り	クリーム大福
	22	おやつ作り	さつま芋蒸しパン
	23	祝い膳	ちらし寿司・刺身・天ぷら盛り合わせ・ふろふき大根 花野菜の青しそ和え・すまし汁・ロールケーキ
	30	おやつ作り	誕生日ケーキ

《振り返りと課題》

29年度は口の中でばらけて食塊形成の難しい荒刻み食を減らし、やわらか食へと移行した。全対象利用者に対しては実施できなかったが、ダブルチェック等で随時検討し、移行してきたいと考えている。

やわらか食は分解酵素に漬けて繊維を伸ばした調理法で、見た目や形をそのままの状態で見られるように工夫を凝らしている。それにより咀嚼がスムーズにでき、誤嚥も予防できる。利用者が美味しく、見た目にも楽しめるようさらにやわらか食の質の向上を目指し、委託業者と連携しながら進めていきたい。



【通常の魚食】



【やわらか食の魚食】

【食事作り】



【キャベツの収穫】



【ジャガイモの収穫・調理】



【食事作り】



【蒸しパン作り】



【お寿司作り】



【パン作り】

《総評》

年間通して、『ひろた農園』で収穫した野菜で調理を行ったり、各ユニット、デイサービスにておやつを作ったりとしている。食を通して楽しみのある生活の支援を継続して実施していきたい。

5. 研 修 等

〔1〕施設実習等受入状況

期間	活動内容	団体及び個人名	人数
H29. 06. 02	施設見学	高知県立大学	4
06. 21	施設見学	愛媛県立医療技術大学	6
07. 27	施設見学	砥部町民生児童委員	8
08. 10～ 09. 06	社会福祉施設援助技術現場実習	聖カタリナ大学	2
H30. 03. 05	施設見学	社会福祉法人愛信会 森の園	3

〔2〕施設内研修

開催日	研修名	担当者名
H29. 04. 03	倫理及び法令遵守	松下 ひとみ
05. 01	緊急時の対応	伊予消防等事務組合広田出張所 (外部講師)
05. 29 06. 02	摂食ケア	藤岡 早苗
06. 01	食中毒	菊澤 綾香
06. 14	リーダー研修【ダブルチェックの視点】	二宮 幸栄
07. 04 07. 06	褥瘡予防	吉見 涼
07. 26 07. 27	事故防止	門田 佑介
08. 31 09. 05	ターミナルケア	二宮 幸栄
10. 02	身体拘束・虐待	原田 賢一
10. 05 10. 30	リーダー研修【認知症】	上谷 千代
10. 16 10. 30	接遇	西岡 真由美
11. 02	感染予防	上谷 千代
12. 22 12. 23	事故防止	二宮 幸栄
H30. 01. 30 01. 31	ターミナルケア	門田 佑介

02.26 02.28	移動・移乗	藤岡 早苗
03.18	リーダー研修【排泄ケア】	二宮 幸栄
03.19 03.20	事故防止	原田 賢一

